

# 全学ストライキで沖繩デー

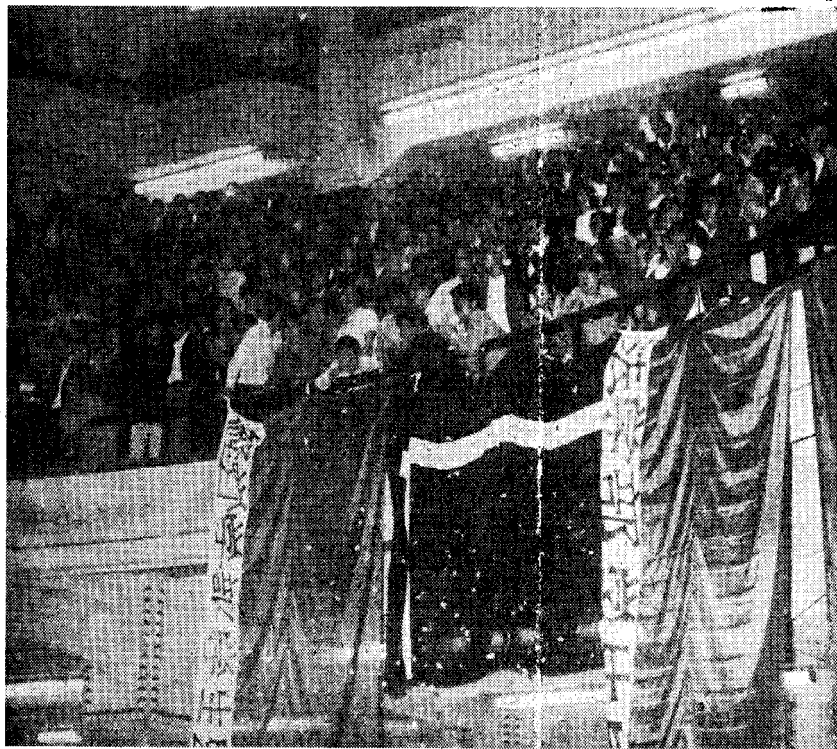
4・26  
4・28

「四・二八沖繩デー」は社共両党の統一中央大会など全国四五都道府県三一八カ所に十五万人が参加して集会・デモが行なわれた。中でも反日共系学生約二万四〇〇〇人（東京七一〇〇人、大阪二六〇〇人）は各地で行動を起し、東京ではお茶の水、東京、有楽町、渋谷の各駅やその周辺で機動隊と激しく衝突を繰り返し、九六五人（全国では一〇三九人）が公務執行妨害などで逮捕された。一方、本学では学生会中央執行委員会（長善一委員長代行）は二十五日「四・二八沖繩デー」に向けての全学スト権を目指し「臨時学生大会」を開き、出席議員四三九人総代議員数五五九人のうち過半数の二四三人の賛成を得て、二十六日から三日間全学ストに入った。神田、生田、和泉地区ともストは静かに行なわれたが、二十八日は本学前でカルチエ・ラタンが再現され、一時は騒然とした雰囲気包まれた。

■書評行調べ（ルポは二面に）

## 25日 記念館で学生大会

### 圧倒的多数でスト権確立



「カットは4・26「沖繩デー」のスト権確立演説、学生大会—本校記者館撮影」

二十五日の記念館講堂は十四・十五日の閉会に続き、約二〇〇〇人の学生でいっぱいになった。

大会は出席代表議員数の把握に手間どり、開会予定時刻を一時半間半オーバーして、午後四時半に開始された。まず、各学部・短大の議事運営委員各二名、議長三名の発表があった。そして、米田隆介中執委員長（拘留中）からの本大会に向けての「獄中アピール」が紹介され、続いて副委員長の福田直人君（保釈中）の挨拶があった。

ここで、議長団から一度に多くの代表議員が登壇し押しかけたため、正確な代表議員数はわからないが、過半数と認め、学生大会を開催する一と発表があった。長善一委員長代行が議案書を読み上げ、「四月二十六日から二十八日まで

の全学スト」を提案した。

五時半から実質討論に入り、八時まで約三〇人の代表議員がクラスの意見を発表した。賛成意見、反対意見のたびに拍手が湧き起ったり、ヤジと怒号で騒然としたりしたが、商学部一年の内田君に始まった討論も政経学部三年の野本君で終了した。その中で短大二年の代表議員から「中執はなぜバリケード・ストに固執するのか。他の方法はなかったのか」という意見が出されたが、これに答えて福田副委員長が「中執が提案したのはストだけであり、その形態は各地区のスト実行委員会決定することになっている」と述べた。

八時すぎ、議場が閉鎖されて九時に出席代表議員数（八時四十五分現在）が四三九名と発表され、本大会成立が確認された。

「全学スト」に賛成はQ、反対はXという形式で、たまたま投票が開始された。九時十五分、投票の結果が発表され、賛成二四三、反対一五二、棄権七、保留三、無効四で、全学ストライキが可決された。

最後に「学館の管理運営権を勝ち取る」という五つのスローガンを採択、イ・愛と続いて、臨時学生大会は終了した。

その後、本学前通りを約五〇〇人がデモ行進した。

全学ストが可決されてから約二時間半後、正門にバリケードが築かれた。籠から持ち出した机・イスを丹念に並べ、積み上げ、釘を打つ音夜の記念館にこだました。長善一委員長代行の指揮する機動隊は正門、記念館前門の二カ所に約三〇〇名入りゲートを築き上げた。

長善一委員長代行が予定通りスト権が確立された。スト方法については各地区に一任する。